

# ヤマユリ通信 芽吹

vol. 2-1

麻生区協働推進事業 麻生ヤマユリ植栽普及会

H22. 6. 18 発行

## ◆もくじ◆

- 第6回 ヤマユリ鉢植え講習会（種まき編）・・・・・・・・・・ 1
- 鉢植えヤマユリの管理の仕方・・・・・・・・・・ 2
- 人物探訪 中島豪一さん「花の消費量が文化水準を示す」・・・・ 3
- 植栽地便利！7月の開花散策会が楽しみ・・・・ 4

## 第6回 ヤマユリ鉢植え講習会（種まき編）

### 種から開花まで5年もかかるの？

去る4月27日、ヤマユリの発根種を使った鉢植え講習会を、区役所を会場に開催しました。ヤマユリの鉢植え講習会は、これまで年間2回、春は発根種で、秋は球根で行って来ました。毎回のように定員を超える応募をいただき、区民の皆さんの関心の高さに勇気づけられます。

今回は、参加者の心にどのように響いたのか、アンケートからその一端を紹介しましょう。

#### <講義ついて>

- \* これまで球根を買って観賞していたが、種から開花まで5年もかかることを知って感激！
- \* ヤマユリの特徴がわかり大切に育てたい。自然のすごさを感じた。
- \* かつては、ユリが日本から輸出されていたことを初めて知った。
- \* ユリの種類の多さがわかって、大変良かった。

#### <実習について>

- \* 鉢の扱い方、用土の配合など参考になった。
- \* 用土の組成が大変デリケートなものには驚いた。



- \* 配合土量まで教えていただいたので、次につながる。
- \* 辛抱強い活動が必要ながよくわかった。これまでに200名を超える方々に、このような感動と驚きを体験いただきました。秋には、球根による講習会を開催予定しています。引き続き多くの方々に参加していただき、ふるさとの花ヤマユリへの愛着を深めていただきたいと思います。関係者のご支援ご協力を感謝いたします。

## 写真募集



▲紅筋ヤマユリ

来る9月9日から1週間の予定で、麻生のヤマユリ写真展の開催を予定しています。この写真展のための作品を下記の要領で募集いたします。ふるってご応募ください。

- 主催：麻生ヤマユリ植栽普及会
- 作品テーマ：ヤマユリの開花写真、ヤマユリとのかかわりがある写真
- 応募サイズ・点数：2L判以上のカラー紙焼き写真を、ひとり2点以内
- 応募者（区内在住・在勤者のみ）氏名、住所、電話番号 撮影日時、撮影場所を明記
- 応募締め切り：7月31日（消印有効）
- 写真展への出展基準：評価委員会による選定作品のみとします。
- 応募先：〒215-8570 麻生区万福寺1-5-1  
麻生区役所地域振興課 ヤマユリ写真展担当行き(明記のこと)  
TEL:044-965-5116 FAX:965-5201
- 麻生のヤマユリ写真展開催  
9月9日(木)～17日(金) 於麻生区役所2階ロビー
- ◆留意点：ご本人の作品に限ります。作品は、ご返却できませんが、著作権・個人情報については、事務局で責任をもって管理いたします。

□4月

□4月

□5月

□6月

□7月中旬



## 鉢植えヤマユリの管理の仕方

秋植えのヤマユリは、4月中旬頃から芽吹き始め、上の写真のような生長過程を経て、7月初旬から中旬頃には開花します。このように順調に開花を迎えるには、日除けや水やりも大切ですが、病害虫の予防も特に重要です。

球根鉢は、この広報紙が発行される頃には、花茎がしっかり形成され蕾が大きく膨らみ始める時節ですが、梅雨の真っ直中のため、病害虫に冒される最も危険な時節でもあります。

### ◆球根鉢の薬剤散布

●**薬剤調合**:ベンレート水和剤500倍液  
+オルトラン1000倍液+展着剤



●**例:500cc容器の場合**:

ベンレート水和剤 1 g + オルトラン液剤 1 cc  
+ 展着剤 1, 2滴

- ▲4月中旬:発芽:用土面にも散布
- ▲5月初旬:茎立ち10cm:若葉に散布
- ▲5月下旬:蕾のつき始め:蕾周辺に散布
- ▲6月初旬:花茎の形成時:散布
- ▲梅雨時期:毎週、全体に散布

### ◆球根鉢の病気

鉢植えヤマユリは、特にウイルスによる病気にかかりやすく、一度、ウイルスに冒されると、薬剤散布しても元気になりません。予防が肝心。早めに薬剤散布を行ってウイルスを媒介するナメクジ、アリ、白綿アブラムシなどを駆除しましょう。

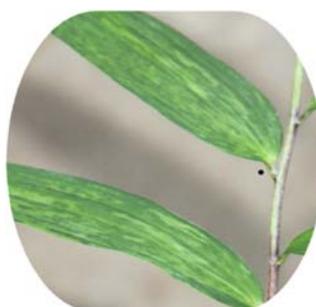
下の4つの写真は、いずれもウイルスに冒されたヤマユリです。このような株は、他に感染しないようにすべて処分しましょう。



▲葉が縮れ、生長が止まる。



▲茎が曲がり、生長が止まる。



▲葉がモザイク病に罹っている。



▲生長の途中で蕾が落ちる。

### ◆種鉢の薬剤散布

発根種の鉢植えは、病害虫に特に注意が必要です。鉢を雨ざらしにするとナメクジに冒されます。若葉を食べられると、そこからウイルスに感染し、折角の鉢植えが葉枯れなどにより、すべてダメになってしまいます。

●**薬剤は、球根鉢用と同じように調合します。**

- ▲5月中旬 発芽:用土面にも散布
- ▲梅雨明け頃まで1週間おきに散布
- ▲害虫と日差し対策に不織布や寒冷紗をかける。種まき2年目、3年目の鉢の芽吹き鉢は、水のやり過ぎに注意。秋には、植え替えましょう。



▲鉢に不織布・寒冷紗などで覆いをかける。



▲昨年秋、木子を鉢に植え替えたもの(6月初旬)

球根植え2年目・3年目の鉢には、茎の周りから木子が3、4本茎立ちしているかと思えます。薬剤散布をして、元気に育つように手当しましょう。今年の秋には、植え替えしましょう。

蕾落下



## 「花の消費量が文化水準を示す」

知る人ぞ知る、長年ヤマユリの植栽保全を進めておられる地元の名士・中島さん宅で「ヤマユリに寄せる想い」を伺いました。

—3年前のこと、私どもがヤマユリの研修視察に「神奈川県立フラワーセンター大船植物園」に伺ったとき、麻生区在住の中島さんが当植物園を建設されたことを知りました。ヤマユリに特別な想いがあるのでしょうか、…

「40数年前、私が神奈川県に勤めていたときに、現在の『フラワーセンター大船植物園』構想を創りました。神奈川県農業試験場が平塚に移転することとなり、その跡地に観賞植物のユリ、シャクヤク、ハナショウブなどを輸出作物として、また園芸の普及と植物に親しむ場の提供を目的とした施設を開園したのです。

当時の県知事が外交官出身で、花に対する愛着がとても深く、『国の文化度のバロメータは、花の消費量で決まる。花の消費量の高い民族ほど文化水準が高い』との情熱に支えられ、植物園の開設の準備がスタートしました。

その構想のイメージは、オランダの有名なキューケンホフ公園にチューリップ見本園があり、

その見本園を参考にしました。また横浜は、明治の開港とともに、ユリを始め園芸作物等の輸出をする商社が多く、広く民間の方々の意見を聞きながら進めました。

県内には、輸出業者の勧めによりユリ根を栽培する農家が多くありました。その内の一農家で栽培されていたカノコユリの野生種は、花びらがいろいろと変化に富み、実に美しい。そういった草花を増やして輸出しようとしたのです。」と静かに当時を思い起こす。

「41歳のとき、アメリカのユリの生産・販売状況の視察のため1ヶ月間出張を命ぜられ、生産者・販売者・市場等、アメリカオレゴン州の球根会社なども視察しました。我が国では手作業で畑を耕し球根を手植えしているのに対して、トラクターを使うなど大規模生産をやっている様子を見て、あまりの違いに驚いたね。」と当時を懐かしむように事業発想の違いを語る。

—50年以前は、麻生の緑地には、ヤマユリが群生していたそうですが、…

「麻生地域では、7月初旬頃、山野ではどこでも咲き誇っていた。毎年、どの家も暮れには、正月のおせちの料理用にヤマユリの球根を掘って煮物にしていたね。

また、開花時には花屋さんがやってきて、大量に刈り取って銀座で販売していた。元手はタダですから・・・。」とヤマユリが日常生活の中にあつたことを懐かしむ。

—ところで麻生の緑地もヤマユリ、キンラン、カンアオイなどの希少植物が少なくなり、再生・保全活動が難しくなっています。そんな中で、植栽・保護しているものでも持ち出す人がなくならないのが残念です。

「昨年秋、新百合の住宅展示場側の駐車場に植えたヤマユリを盗掘されました。」

—何とか対策はないものでしょうか。私どもも植栽地に柵や看板を作る予定ですが、…

「家の門の側に咲いたヤマユリに『みんなで楽しみましょう』の看板を立てたら、即、盗られてしまった。盗られても、盗られても植え続けることだね。」と苦笑。

「津久井地区では、ヤマユリの保護地域を指定してPRした途端に、盗掘にあった。よく『花ドロボウは、罪にならない』と言われるが、そういう意識があるようだね。」えっ、ほんとう？

—これからの麻生の緑地に対しての想いは？

「山が荒れている。かつては、10年ごとに立木を伐採して炭や薪にして燃料等にしてきた。下草は、家畜の飼料としてまた堆肥などにして利用され、美しい里山が保たれ、その中にヤマユリなどの自生植物が生息していた。

30年以上も経った樹木は伐採すると切り株から芽吹きがなくなり再生しにくくなる。緑地・公園管理も地域の方と楽しみながら進められるように行政の方々の理解がほしいね。」

そして「何とか、里山にヤマユリを残したいね」と強い想いを語る。



▲庭の植え込みのヤマユリの生長ぶりを覗う中島さん

# 5・6月植栽地便り!

## 7月の開花散策会が楽しみ

### 持ち込み球根による植栽には、適宜、薬剤散布が必要!

芽吹き時の植栽地の管理は、特に、薬剤散布などの注意深い対応が必要。それは、持ち込んだヤマユリ球根は植栽地の生物（バクテリア等の殺菌類や各種害虫）と共生することが難しいため、当初は、薬剤散布などにより保護してやることの必要性が分かってきました。

植栽時にオルトラン粒状を散布。そして、芽吹きが2, 3 cm程度になった頃にも薬剤（ベンレート500倍液+オルトラン1000倍液+展着剤）の散布が効果的のようです。

これまで、再生がうまく進まない植栽地では、生育環境が不適なことと合わせて、その管理の仕方に問題があったように思います。万福寺地区のおやしる公園の植栽地は、ヤマユリの生育条件が最適であることと同時に、生長に合わせて薬剤散布等が功を奏して、2年目の茎立ちが、1年目の株と比べて期待以上に元気に生長しています。これらの株は、植栽地の生物と共

生できているのではないかと思います。

また球根植栽のうち2年目以降、親球根が消えた場所から木子が数本茎立ちしているものがあり、自生地復活の兆しが現れてきたのでしょうか。

今年ヤマユリは、総じて順調に生育しています。しかし1, 2割程度は、ウイルスや害虫に冒されています。6月はじめ頃からは、蕾もできはじめアブラムシ等の食害時期となります。花芽の時期にアブラムシに冒されると美しい開花は迎えられません。

植えばなしでは、開花の歩留まりが良くないのは当然。一方、この時節、荒れた緑地に分け入ってまず驚くのは、クズやカツラのツルが一面に覆い被さっていることです。

会員一同、開花を楽しみに、またヤマユリの再生・復活する日を夢見て、このツル草取りに日々汗をかいています。



▲この地図は、昨年、麻生区内でヤマユリ開花が確認された場所をマッピングしたものです。

今年は、どのような場所でヤマユリが見つかるか。7月初旬ごろ散策してみてもはどうでしょうか。

### 会員募集中

地域のボランティアのみなさんと一緒にヤマユリに親しみながら緑地で汗を流してみませんか。

年会費：1,200円

定例会議：原則、毎月第二木曜日午後

会場：交流館やまゆり

植栽活動：指定の各緑地（月に1回～2回）

★問合せ・連絡先：当会会長（事務局）貞本 勉

TEL：090-7175-4995

E-mail：tsutomu.sadamoto@nifty.com

### 行事予定

7月～11月の主な予定

7月初旬 麻生区内ヤマユリ植栽地開花散策会  
（開花マップデータの収集）

7月初旬 開花ヤマユリ鉢展示（麻生区役所）

9月9日～17日 ヤマユリ写真展

11月 ヤマユリ鉢植え・植え替え講習会  
ヤマユリ植栽活動（6か所）